

# 宮城教育大学附属中学校の規模変更について

2025年3月18日

宮城教育大学は、附属学校園を設置し、実践的な教育研究を行う附属施設として、また地域の教育力向上に向けて取り組んでいるところです。

附属中学校においては、1学級40人とし1学年160人を定員として学校経営をしているところですが、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、生徒の資質・能力を育成することが求められる中、より一層きめ細かな指導・支援を充実していく必要があります。

仙台市においてはすでに中学校において35人以下学級が実施されており、県内の公立中学校では、多くの学校において少子化の影響から1学級あたりの生徒数の平均は40人を下回っております。このような状況から、これまで学内において、附属学校の地域のモデル校としての役割や現職教員の研修機会の提供といった役割を果たすなど機能強化の観点からも適正規模について検討してまいりました。

この度、求められる質の高い教育を実現するとともに、附属学校としての機能強化を図る観点から、下記のとおり規模を変更することを文部科学省と協議中であることをお知らせします。

## 【概要】

- 令和8年度入学生から、1学級35人とし、学年定員を140人に変更

	1学年	2学年	3学年	合計
令和8年度	140人	160人	160人	460人
令和9年度	140人	140人	160人	440人
令和10年度	140人	140人	140人	420人

- 規模変更により期待される効果
  - ・ きめ細かな指導支援の充実
  - ・ 子供に向き合う時間の確保・充実
  - ・ 教育研究の充実及び教育内容の充実
  - ・ 附属学校としての機能の充実